

# 増殖天

春は終わりの季節であり、また始まりの季節でもある。春がこのような季節であることが最もわかりやすい形で表れたのが卒業である。

今現在、高校生である私たちが、小学校、中学校と少なくとも一回は卒業式を経験してきたが、苦楽を共にしてきた同級生と離ればなれになり、長い歳月を過ごしてきた校舎にも別れを告げなければならぬというのは、とても寂しいものだ。

今まで当たり前のように、すぐそこにあつた生活と縁が断ち切られてしまう卒業にはなんとも言えぬ悲しみがある。私たちはその悲しみを乗り越えて、新しい始まりに目を向けるのだ。

ただ、このような卒業を迎えるのは、三年生だけではない。一、二年生は進級し、新たな気持ちで始まりへと向かう。それは、自立への自覚が芽生え、古い自分から卒業するということが、先生方は教え子との別れの寂しさに耐えて新入生を迎えるのだろうし、保護者の方々は我が子が立派に成長し、いつかは巣立っていくのを見送らなければならぬ。

三年生に限らず、一、二年生や先生、保護者の方々も、たった一度しかないそれぞれの卒業を大切にしてほしい。愛好歌「だいせい」に記されているように、同じ春は来ないのだから。